39 つどいアピール

つどいアピールとは

この文書は、第 39 回民医連の医療と研修を考える医学生のつどい（以下、39 つどい）3 月つどいにおける 3 日間の総まとめとして書かれたものです。さまざまな職種・世代が集うこの企画において、参加者一同としてどのような学びがあったのかを確認し、私たちがこれから何をすべきかを考えるためにあります。そして私たちだけでなく、今回参加できなかった人たちにも向けてメッセージを発信することで、その思いを次のつどいにつなげるものとして、毎年受け継がれてきました。

39 つどいについて

39 つどいでは「すべてのいのちが大切にされる社会」を年間テーマとし、生活や人権が脅かされている現状を知り、その背景にある社会構造にまで目を向けてきました。そして、今私たちにできることは何か、また将来医師として何ができるのかを参加者全員で考え、共に良い医療を目指してきました。大阪で開催する 3 月つどいでは「労働者の健康」をテーマとしました。

学習企画

学習企画では、大阪社会医学研究所所長の中村賢治医師から、「労働者の健康」というタイトルでご講演をいただき、医師が患者さんの労働環境をはじめとした生活背景に目を向け、行動することの大切さを学びました。そして、なぜ健康が阻害される環境でも働かざるを得ない労働者が多く存在するのか、その背景にある社会構造にも目を向けて考えることができました。

フィールドワーク企画・全体学習会

フィールドワーク企画では、1 日目の学習講演も踏まえ、12 コースに分かれて実際の労働現場を見学しました。その後、全体講演として、過労死された方のご遺族である田村和男氏と、過労死弁護団全国連絡会議代表幹事である松丸正弁護士にお話しいただき、企画全体を通して、過労死・過労自殺が起きる背景や社会構造について学ぶことができました。また、労働という視点で患者さんの背景を考えることの重要性を共有し、医師として何ができるのか考えました。

研修企画

研修企画では、立川相互病院副院長の山田秀樹医師にご講演いただきました。講演では、現在の医師の労働環境における問題点とそれについての先生ご自身の考え方や、民医連の向き合い方をお話しいただきました。SGD では、理想の医師像を共有し、それを実現するために必要な労働環境や研修を考えました。現状では理想をすべて実現できるとは限らないと気づき、その原因を追求しました。卒業後、医師として理想の働き方に近づくために必要なことを深く考える機会になりました。

交流会企画

1日目は学年別に分かれて交流し、それぞれ同世代の絆を深めました。2日目には大交流会として、医療系ドラマをモチーフとした劇とゲームを行いました。医師の労働環境を学びつつ仲間の大切さを改めて認識し、楽しい時間を過ごすことができました。

5年生企画

5年生企画では、民医連医師の経験も参考にしながら、初期研修では何を学ぶべきなのか、また、そこで学んだものがその後どう活かされるのか考えました。さらに、民医連の理念に立ち返り、研修制度が変化していくなか、民医連の病院だからこそ学べることは何なのかを知り、同時に、ともに研修をしていく仲間を増やすきっかけの場となりました。

奨学生活動報告

民医連の奨学生を中心に各県連で行われている奨学生活動をブックレットにまとめました。また、各地協の代表に39つどいに関わる学習を報告してもらいました。各地で行われている学びを持ち帰り、地元での活動につなげていきましょう。

振り返り企画

振り返り企画では年間テーマ「すべてのいのちが大切にされる社会」とはどんな社会か、その理想に近づくためには医療者として何ができるか、SGDを中心に考え深め合いました。つどい1年間を通して学んできたこと、さらには各県連や個人的な学びを共有することで互いに刺激し合い、この先の学びのきっかけとなりました。

おわりに

3月つどいでは、「すべてのいのちが大切にされる社会」という年間テーマをもとに、「労働者の健康」について学習しました。

本来、働くことは単にお金を稼いで生計を立てるということだけでなく、社会参加の一つの手段として、生きることの喜びを享受できるものです。しかし、労働環境によってはむしろ健康や生活を害されている人々も存在します。この現状やその背景にあるものを知り、一人の医療者、労働者として、何ができるのか共に考え行動しましょう。このことは必ず、「すべてのいのちが大切にされる社会」の実現につながるはずです。

2019年3月23日

第39回民医連の医療と研修を考える医学生のつどい

3月つどい参加者一同